



## 今月の話題

- 第2回日本地震工学会国際シンポジウム
- 建築・土木分野のISO/TC98の活動と構造設計規準の各国の現状に関する国際ワークショップ
- 東北研修旅行レポート
- 紅葉狩りパーティー
- 研修生からのレター
- 訃報
- IIEE セミナー
- 東北研修旅行の写真

## 研修 データベース

IIEEUNET (地震防災技術情報ネット)

IIEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース (修士論文概要)

Bulletin データベース

## 第2回日本地震工学会国際シンポジウム

国際地震工学センター 主任研究員 鹿嶋 俊英

2013年11月11日～12日に、東京・国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された、日本地震工学会主催の国際シンポジウムに、地震学コースと地震工学コースの研修生17名が参加しました。2日間にわたり、計28編の論文が発表され、研修生も加わり活発な議論が行われました。



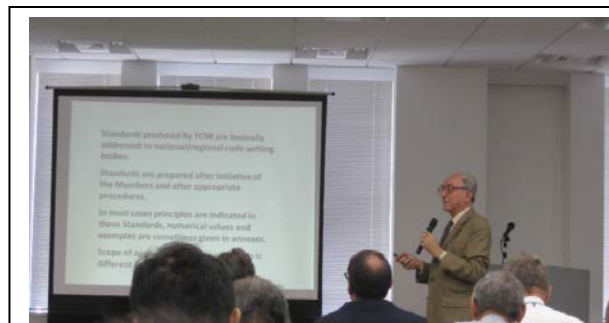
日本地震工学会国際シンポジウム

シンポジウムは、地震工学の発展に資する質の高いアブストラクト査読付の英文論文を発信する場として位置づけられており、研修生にとっては、知見を広める大変良い機会となりました。JICAを始め参加にご協力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

## 建築・土木分野のISO/TC98の活動と構造設計規準の各国の現状に関する国際ワークショップ

国際地震工学センター 上席研究員 森田高市

2013年11月13日、東京において、建築・住宅国際機構(IIBH)の主催により、「建築・土木分野のISO/TC98の活動と構造設計規準の各国の現状に関する国際ワークショップ」が開催されました。地震工学コースの研修生8名が、研修の一環として、ワークショップに参加しました。約90名の参加者を前に、日本、アメリカ、チェコ、デンマーク、ポーランドからの8名の研究者・技術者から、ISO/TC98



ISO/TC98 議長 A. M. Brandt 氏

の各WGの最新情報(構造信頼性・地震力・非構造部材等)や、日本・米国・欧州の構造設計規準の現状について、報告がありました。最後に発表者によるパネルディスカッションがあり、基準の国際調和の今後のあり方について議論しました。

## 地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

## 論文募集

IJSEE Bulletinは、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



## 東北研修旅行レポート

### (1)Ms. Yanuarsih Tunggal PUTRI(インドネシア、地震学コース)

2004年の新潟県中越地震と2011年の東北地方太平洋沖地震の被災地への研修旅行はとても有益なものでした。「どうもありがとうございました。私はこの施設からたくさんのことを学びました。皆様が今後も地震と折り合って生きるということを他の多くの人々に届け続けることを望みます。」これは私が長岡震災アーカイブセンターで書いたメッセージです。私は、自分の力で、自分の町で生きていく、という山古志精神を持って帰ることができました。



2011年の東北地方太平洋沖地震も、2004年のスマトラ地震同様、1000年に一度の地震に分類されています。その長い再来期間は有利な点と、不利な点の両方があります。有利な点は、地震を研究する時間を長くとれ、それによって災害をうまく乗り切るための新しい技術と規則を作ることができることです。しかし、一方では、長い時間が経つことによって災害と、それによる悲しみを忘れてしまい、災害を警戒しなくなってしまう。私たちは今から10年後、100年後、そして、たとえ100万年経ってもこの記憶を次の世代に伝えていかななくてはなりません。

2011年の東北地方太平洋沖地震も、2004年のスマトラ地震同様、1000年に一度の地震に分類されています。その長い再来期間は有利な点と、不利な点の両方があります。有利な点は、地震を研究する時間を長くとれ、それによって災害をうまく乗り切るための新しい技術と規則を作ることができることです。しかし、一方では、長い時間が経つことによって災害と、それによる悲しみを忘れてしまい、災害を警戒しなくなってしまう。私たちは今から10年後、100年後、そして、たとえ100万年経ってもこの記憶を次の世代に伝えていかななくてはなりません。

2011年の東北地方太平洋沖地震も、2004年のスマトラ地震同様、1000年に一度の地震に分類されています。その長い再来期間は有利な点と、不利な点の両方があります。有利な点は、地震を研究する時間を長くとれ、それによって災害をうまく乗り切るための新しい技術と規則を作ることができることです。しかし、一方では、長い時間が経つことによって災害と、それによる悲しみを忘れてしまい、災害を警戒しなくなってしまう。私たちは今から10年後、100年後、そして、たとえ100万年経ってもこの記憶を次の世代に伝えていかななくてはなりません。

### (2)Mr. Shafiq Ur REHMAN (パキスタン、地震学コース)

四日間の研修旅行は、2004年の新潟県中越地震と2011年の東北地方太平洋沖地震について、新潟県と宮城県における地震・津波被害、その応答と復旧を学ぶことを目的に計画されたものでした。2004年の新潟県中越地震の破壊は、地



滑りやインフラ被害、そして新潟地方の厳しい積雪が結びついて長引きました。その一方、女川町や名取市では、多くの人々の命が奪われた未曾有の津波が観測されました。

そのような場所への研修旅行は、教室や研究室では教わることのできない地震や津波のメカニズムやエネルギーを学ぶ機会を与えられただけでなく、日本の文化や伝統も垣間見ることができました。特に新潟県では伝統的な日本と現代的な日本の融合を見ることができました。この旅行では、私だけではなく、すべてのコースの研修生がその知識を新たにすることができました。また、それぞれの国に戻った時には、地震や津波に対する対応手段を実行できることになると思います。

### (3)Mr. Adhi Yudha MULIA (インドネシア、地震工学コース)



2004年の新潟中越地震と2011年の東北地方太平洋沖地震は違った規模で広範な被害をもたらしました。2004年の新潟中越地震は長岡市の人々に大きな影響を与え、2011年の東北地方太平洋沖地震は、東北地方と日本全体に大きな影響を与えました。

それらは強い地震でしたが、災害の後、生活を立て直



楽しむのは今です。

し、復興に立ち向かう人々の意思ほど強いものではありませんでした。私は長岡市の人々が日常の生活や文化を取り戻しているのを見てきました。一方で、宮城県の人々は現在復興途上です。私は日本の人々が被災者を助け、励ます姿に感銘を受けました。

災害を、今の、そして次の世代が心に刻み、また、将来起こりうる災害への警鐘とするために、追悼施設等が建てられていました。

#### (4) Mr. Erasmo Jose AGUILAR ARRIOLA (ニカラグア、地震工学コース)



2011年の東北地方太平洋沖地震は世界にとって大きな教訓になっています。人類がリスクの中で生きていることを思い出させてくれました。被災した人のように、あきらめずに努力を続けていくこと、そして強くなることを学びました。私が大切だと感じた2つのことは迅速かつ効果的な政府の対応と、被災地以外の日本の人々の友情と行動です。

#### (5) Mr. Jorge Manuel MORALES TOVAR (ペルー、津波コース)



最初に、今回の研修旅行に同行され、素晴らしい案内と説明をして下さった都司先生と藤井先生に感謝申し上げます。先生方を通じて多くのことを学ぶことができました。研修旅行は大変有意義なものでした、ペルーでは津波リスクのある巨大地震の発生が予測されています。研修旅行を通して、政策、計画、対策、更に災害発生前、発生時、そして発生後の住民の行動について学んだこと

全てが、大変有意義なものでした。事前の防災への取り組みや災害に対する住民への教育・研修が重要なことも学びました。研修旅行で習得した多くの知識を各研修生がそれぞれの国に持ち帰り、広めることと思います。

## 連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEEと卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国での活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp  
http://iisee.kenken.go.jp

## 紅葉狩りパーティー

日本の秋を楽しむため、IISEEでは、11月23日(水)にわいわいと紅葉狩りランチパーティーを催しました。公式行事ではありませんが、研修生21名を含む総勢30名ほどが参加しました。当日は残念ながら外にでるには少し寒い天気でした。そこで新館8階を借り、筑波山を眺めながら弁当に舌鼓を打ちました。



お茶で乾杯



筑波山

紅葉狩りは日本の秋の行事の一つで

す。人々は色づく木々の葉をみて秋を味わいます。今回のパーティーは11月初旬に来日した2013-14年研修生とIISEEスタッフとの初めての行事ということになります。



## 研修生からのレター

☒元研修生から博士号取得の連絡がありました。今後の活躍をお祈りいたします。

**Dr. Rami Ibrahim** (シリア、地震学コース 2006-07)

授与大学: 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻

論文題名: 長周期地震動予測式とサイト特性を考慮した大マグニチュード推定への応用

授与日 : 2013年9月27日

**Dr. Himangshu Sekhar Mandal** (インド、地震学コース 2005-06)

授与大学: ダーンバード・インド鉱業大学応用地球物理学部

論文題名: インド中部における不整形地盤の挙動

授与日 : 2013年10月10日

## 訃報: Dr. Ezzeldin Mohamed IBRAHIM (Egypt)

エジプト・エブラヒム氏の訃報が届きました。国立天文学地球物理研究所教授エゼルデン・モハメド・イブラヒム氏は、2013年11月6日(水)享年71歳でご逝去されました。イブラヒム氏には、最初の地震学コースの研修生だったころ東京で出会った日本人の妻がいました。氏は、1967-68年の地震学コース、1983年にはセミナーコース、1979年と1984年には個別コースに参加されました。IISEE一同、心からお悔やみ申し上げます。



この写真は、1983年にイブラヒム氏がセミナーコースに参加した時に撮影されたものです。

\*右から左に:

イブラヒム氏

モラレス氏(ペルー)

渡部丹氏

宮村攝三氏

バックナンバーは  
下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

### 第12回 IISEE セミナー

日時: 2013年12月4日水曜日, 15:40 - 16:40

講師: ブリティッシュコロンビア大学 Dr. Tony YANG,

題名: 北米における性能に基づく耐震設計の現状と損失評価のためのツール

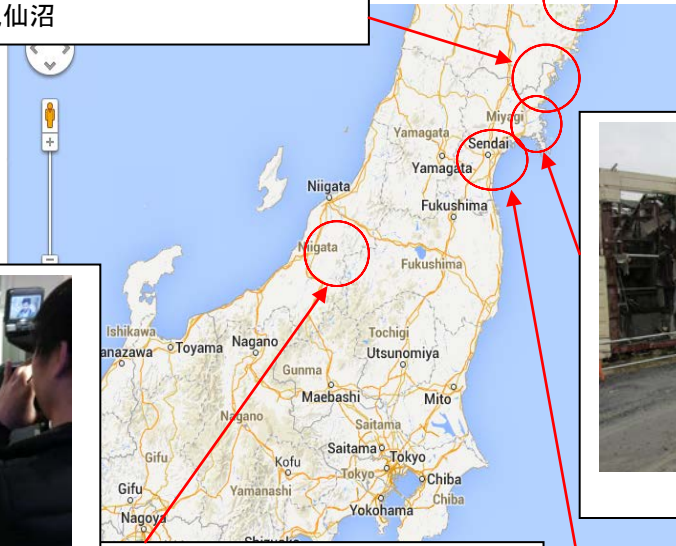
# 東北研修旅行の写真



気仙沼



釜石港



テレビ取材



女川町



やまこし復興交流館



国土交通省東北地方整備局